

伊理先生のご逝去を悼む

2018年8月13日に、伊理正夫先生がご逝去されました。享年85歳でした。伊理先生は、数理工学の分野で教育・研究に多大な業績を残されました。本学会では1992、1993年度に会長を務められましたが、地理情報システム学会会長（1994～1996年）、日本応用数学会会長（1996～1997年）、日本測量調査技術協会会長（2001～2010年）なども歴任されました。研究業績に対し、1965年に松永賞、1993年に東レ科学技術賞を受賞され、1995年に紫綬褒章を受章されました。

伊理先生は東京大学工学部応用数理学科をご卒業後、数理工学の構築とその応用分野の開拓に携わり、理論と応用の両面から極めて広い分野にわたって独創的な研究を推進されました。特に、グラフ・ネットワーク・マトロイドといった離散構造の工学的応用を、OR・電気回路・計算機科学などの諸分野にわたる総合的視点から展開されました。高速自動微分法を始めとする新しい数値解析手法の開発や、地理情報システムの数理的な方法論の確立なども、時代を先取りした独自の研究です。

OR学会の国際化においても、先生は中心的な役割を果たされました。1988年に東京で開催された第13回数理計画法国際シンポジウム (ISMP) 組織委員長や、アジア太平洋地域オペレーションズ・リサーチ学会連合 (APORS) の会長 (1992～1994年) を務められ、日本OR学会を国際社会の一員に導いてくださいました。

語学にご堪能であった先生ですが、では、どの言語かということになると、英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、中国語、……、イタリア語、ポーランド語、……、ギリシャ語、ラテン語、エスペラント語、……という具合で、正確には把握できません。語学へのご関心は、知識の域を超えた愛着すら感じられました。

若い研究者に向けて書かれた記事のなかに「永い技術の歴史、学問の伝統をじっくりと学び、その上に立って現在・未来の技術的課題を自らの心と頭でとらえて研究するような、そういうタイプの若い研究者も（中略）存在して欲しい」という一文があります。これは30年前の文章ですが、当時の若者たちに研究者のあるべき姿を明確に示してくれました。

卓越した知性と見識に基づいてわれわれを導き続けてくださった伊理正夫先生に改めて感謝申し上げますとともに、先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

(室田一雄)



故伊理正夫先生略歴

昭和8年1月7日 生まれ

【学歴】

昭和30年3月 東京大学工学部卒業
35年3月 東京大学大学院博士課程修了

【学位】

昭和35年3月 工学博士（東京大学）

【職歴】

昭和35年4月 九州大学工学部助手
同年12月 同上 助教授
37年10月 東京大学工学部助教授
48年4月～平成5年3月 同上 教授
62年4月～64年3月 東京大学工学部長
平成5年5月 東京大学名誉教授
同年4月～15年3月 中央大学理工学部教授
8年4月～14年3月 中央大学理工学研究所長
8年4月～17年3月 麻布学園理事
13年5月～22年5月 日本測量調査技術協会 会長

【受賞・受章】

昭和40年12月 松永賞
平成5年3月 東レ科学技術賞
7年11月 紫綬褒章
19年11月 瑞宝中綬章

【OR学会関係】

研究普及理事 昭和50・51年度
評議員 昭和53～平成元年度、平成6～13年度
論文誌編集委員長 昭和55・56年度
副会長 昭和59・60年度
国際委員長 昭和59・60年度
表彰委員長 昭和59・60年度
フェロー 昭和62年度
会長 平成4・5年度
名誉会員 平成7年度
代議員 平成14～17年度